

## 九戸村観光施設事業経営戦略

団 体 名 : 九戸村

事 業 名 : 九戸村索道事業

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 2 年度 ~ 令和 11 年度

※複数の施設を有する事業にあっては、施設ごとの状況が分かるよう記載すること。

## 1. 事業概要

## (1) 事業形態

法適(全部適用・一部適用) 非 適 の 区 分	非 適	事 業 開 始 年 度	昭 和 56 年 度
事 業 の 種 類	観 光 施 設 事 業 ( 索 道 )	施 設 名	村 営 く の ヘ ス キ ー 場
職 員 数	3 人		
事 業 の 内 容	<p>営業施設の概要は、ゲレンデ面積18ha、滑走コースは3本、内ナイターコース1本、ペアリフト1基、ロープウェイ1基である。令和元年度に、第2ペアリフトを廃止した。休憩施設は、村内業者へ貸し出して食堂を開設している。営業期間は、一般財団法人九戸教育施設運営会から職員3名と同運営会臨時職員13名で運営している。営業時期は、例年12月下旬から3月上旬の間としている。(令和元年度は12月30日～3月8日の間営業)</p>		
民 間 活 用 の 状 況	ア 民間委託	なし	
	イ 指定管理者制度	なし	
	ウ PPP・PFI	なし	

## (2) 料金形態

料金の概要・考え方	公営のファミリースキー場として安価な料金設定している。また利用者の利便性を考慮し、リフト時間券を多種設定している。(時間券:2・3・4・6時間 一般1,100~2,000円 中学生以下等600~1,400円)半日及び1日券の設定は無し。	
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	令和2年12月	

## (3) 現在の経営状況

年間利用状況 ※単位を明記すること ※過去3年度分を記載	H29	6,614人	H30	3,500人	R1	7,719人
経常収支比率 (又は収益的収支比率) ※過去3年度分を記載	H29	99.9 %	H30	100 %	R1	99.9 %
他会計補助金比率 ※過去3年度分を記載	H29	70.5 %	H30	89.1 %	R1	87.5 %

【上記の収益、資産等の状況等を踏まえた現在の経営状況の分析】  
毎年の収益不足を一般会計からの繰入金に依存している状況である。

## 2. 将来の事業環境

### (1) 宿泊客数(観光客数)の見通し

現在、9割程度は村内もしくは近隣からの利用者となっており、今後はふるさと納税返礼品の対象として、宿泊パック(無料リフト券付き)を設けるなど、広域(青森県南・岩手県北)からの観光客の増加を目指していく。

## (2) 料金収入の見通し

本施設の料金収入はリフト券の販売が約8割を占めているが、シーズン中の営業可能な日数に応じて各年度の収入の変動が大きい。また、過去3年の平均輸送人員は減少傾向にあることから、現状の料金収入を維持するためには、リフト時間券種を絞ることを検討する。(H29:896人、H30:631人、R1:677人)

### ◇過去5年間の営業日数と利用者及び料金収入の推移

年度	営業日数 (1)	輸送人員 (2)	平均輸送人員(2)/(1)	料金収入(円)
平成27年度	44	40,179	913	1,875,000
平成28年度	59	64,270	1,089	3,283,900
平成29年度	59	52,839	896	2,562,600
平成30年度	38	23,976	631	1,496,100
令和元年度	70	47,393	677	3,058,000
令和2年度(見込み)	65	50,000	769	3,363,000

## (3) 施設の見通し

ベアリフトは改修後20年が経過し、ほとんどの設備が更新・整備・交換の時期となっている。令和元年度にベアリフト1基を廃止したが、今後、更新需要が高まっており、令和3年度～令和8年度で90,860千円がかかることがみこまれていることから、財政部門及びメーカーと協議し、優先順位をつけながら計画的に進める。

## (4) 組織の見通し

現在、職員3名と同運営会臨時職員13名で運営しており、今後も適正な人員の確保に努め、常に労働環境の整備を図り、適正な定員管理に取り組む。

## 3. 経営の基本方針

冬期観光レクリエーションの振興と村民の健康の増進を図るため、サービスの充実を図りながら、安全で快適なスポーツ施設を運営する。  
施設の適正かつ効率的な運営と維持管理を行い経費の節減に努めるとともに、財政負担の軽減を図るため収益の増加を目指す。また、一般会計からの繰入金を最小限にし、経営の健全化を図る。

#### 4. 投資・財政計画(収支計画)

- (1) 投資・財政計画(収支計画) : 別紙のとおり  
(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

##### ① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	旅客の安全確保のため、計画的に設備等の更新・整備を行う。また、大規模な施設・設備の更新が無い年度については、他会計繰入金範囲内で、必要な修繕等を適切に行う。
-----	--

R3年ーリフト設備更新・整備	3,300千円
R4年ーリフト設備更新・整備	6,160千円
R5年ーリフト設備更新・整備	61,600千円
R6年ーリフト設備更新・整備	9,570千円
R7年ーリフト設備更新・整備	7,700千円
R8年ーリフト設備更新・整備	2,530千円

##### ② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	料金収入については現状維持を見込んでいる。収入不足は他会計からの繰入金を充てる。
-----	--

##### ③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

職員給与費は、適正管理に努め、毎年2%の増加範囲内に抑える。管理運営費については、見直しを図りながら削減に努める。
---

### (3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※投資・財政計画(収支計画)に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。  
また、(1)において、純損益(法適用)又は実質収支(法非適用)が計画期間の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュールや必要に応じて経費回収率等の指標に係る目標値を記載すること。

#### ① 今後の投資についての考え方・検討状況

民間活用	指定管理者制度の導入を検討する。また、民間企業の手法を導入するなど経営の効率化を進める。
投資の適正化	施設・設備等の適切な維持管理により状況を把握し、更新等に対しては優先度を考慮した投資の平準化を図る。
その他の取組	

#### ② 今後の財源についての考え方・検討状況

料金	利用者のニーズを的確に把握するとともに、各種割引等の導入等を検討し、適正な料金設定に努める。
稼働率・利用者数	広域(青森県南・岩手県北)からのリピーターを増やす魅力ある施設運営を目指す。
企業債	
繰入金	一般会計からの安易な繰入に依存することなく、効率的な運営により最小限に抑える。
資産の有効活用等による収入増加の取組	冬期間のみの施設であることから、通年の利用について検討する。
その他の取組	

#### ③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委託料	指定管理制度導入などの業務委託について検討する。
管理運営費	効率的な運営により、経費削減を図る。
職員給与費	必要最小限の職員配置を検討し、適正管理に努める。
その他の取組	

## 5. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービス自体の必要性	本村における冬期の観光拠点施設として大きな役割を果たしている。また、村民の健康増進と観光客の誘致に貢献しており、冬期レクリエーション活動に必要な施設である。
公営企業として実施する必要性	過疎地域であり民間事業者は採算性が取れないため、参入が見込めない一方、冬期間の雇用の増として大きな役割を果たしている施設であるとともに、住民の健康増進と村への観光客の誘致に資するよう、公営企業として実施する必要がある。

## 6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、改定等に関する事項	財政状況や社会情勢等に応じて、3～5年を目途に随時計画の見直しを行う。
---------------------	-------------------------------------